練馬区立美術館 コレクション展その2

寺田真由美 TERADA MAYUMI

2026 7.25 sat. → 10.18 sun.

不在の存在

1

3

2

主催＝練馬区立美術館［公益財団法人練馬区文化振興協会］
休館日＝月曜日（ただし、9月21日㊊㊗、10月12日㊊㊗は開館。9月24日㊍、10月13日㊋は休館。）
開館時間＝10:00〜18:00（入館は17:30まで）

Uni-voice

1《curtain 010401》ゼラチン・シルバー・プリント、50.8×61.0cm、2001年
2《white chair 150701pa》ピグメント・プリント、102.0×139.0cm、2015年
3《view of blossoms from basement 070101》ゼラチン・シルバー・プリント、43.0×57.0cm、2007年

練馬区立美術館 コレクション展その1

若林奮 WAKABAYASHI ISAMU

Run and Rest

1

2

3

2026 令和8年 7.25 sat. → 10.18 sun.

主催＝練馬区立美術館［公益財団法人練馬区文化振興協会］
休館日＝月曜日（ただし、9月21日㊊㊗、10月12日㊊㊗は開館。9月24日㊍、10月13日㊋は休館。）
開館時間＝10:00〜18:00（入館は17:30まで）

会場
練馬区立美術館 企画展示室1／2

［企画展示室1］
寺田真由美
―不在の存在―

［企画展示室2］
若林奮
―Run and Rest―

観覧料（共通）

一般	500円
高校・大学生および65〜74歳	300円
中学生以下および75歳以上	無料

＊一般以外の方（無料、割引対象者）は年齢等の確認できるものを受付にてご提示ください。＊20名以上の団体は、一般300円、高校・大学生200円。＊障害者手帳をご提示の方（介添者1名まで）は、一般250円、高校・大学生150円。

観覧料相互割引
練馬区立石神井公園ふるさと文化館 特別展「水を守る―千川家と千川上水の330年―」（9/12・土〜11/3・火祝）と本展にて相互割引を行います。詳細は、美術館HPをご覧ください。

練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

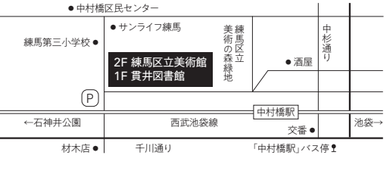
〒176-0021東京都練馬区貫井1-36-16

TEL
03-3577-1821

HP
https://www.neribun.or.jp/museum.html

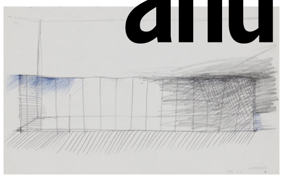
X
@nerima_museum

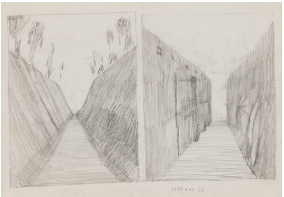
交通のご案内
鉄道｜西武池袋線（東京メトロ有楽町線・副都心線直通）
「中村橋」駅下車徒歩3分
バス｜関東バス「中村橋駅」停留所より徒歩5分
•阿佐ヶ谷駅北口〜中村橋駅［阿01］系統終点
•荻窪駅北口〜中村橋駅［荻06］系統終点
•荻窪駅北口〜練馬駅［荻07］系統「中村橋駅」下車
＊駐車場はございません。（美術館周辺にコインパーキングがあります）＊障害者用駐車場については直接お問い合わせください。

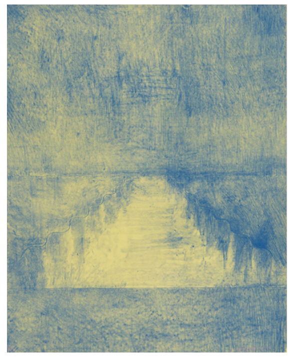


Run and Rest

1


2


3


4

1《106（1991.11.9.⑤）》鉛筆・紙、42.7×28.0cm、1991年11月9日
2《25（1992.3.6 7）》ペン、鉛筆・紙、21.7×35.6cm、1992年3月6日
3《46（1989.4.23）》鉛筆・紙、25.6×36.2cm、1989年4月23日
4《GRASS》リトグラフ・紙、97.5×80.5cm（3点組）、1993年
5《Run and Rest》鉄、168.0×200.0×609.5cm、1996年
（撮影＝山本糾、場所＝若林スタジオ）

2024年度に彫刻家、若林奮（1936–2003）の彫刻《Run and Rest》（1996年）、版画《GRASS》（1993年）、ドローイング等、あわせて計70点をご寄贈いただきました。

若林は、日本の現代彫刻を牽引した彫刻家として、国内外問わず高い評価を得、ヴェネツィア・ビエンナーレはじめ各地で作品発表を重ね、個展が開催されています。主に鉄を素材として「自然」、「時間」、「空間」などに対する独自の観察や思索を抽象的な形態に表現しました。このコレクションは、当館に初めて収蔵された若林作品群であり、彫刻家の造形世界を紹介するにふさわしい質とボリュームを築くことができました。これを機に、日本の現代彫刻を代表する彫刻家、若林奮の個展「Run and Rest」を開催します。

若林奮
WAKABAYASHI ISAMU

東京都出身。
東京藝術大学美術学部彫刻学科、卒業。

1969
第9回現代日本美術展にて
東京国立近代美術館賞、受賞。

1973
文化庁芸術家在外研修員として
1年間渡欧。

1975•80
武蔵野美術大学助教授・教授就任。

1980•86
第39回・第42回ヴェネツィア・ビエンナーレに出品。

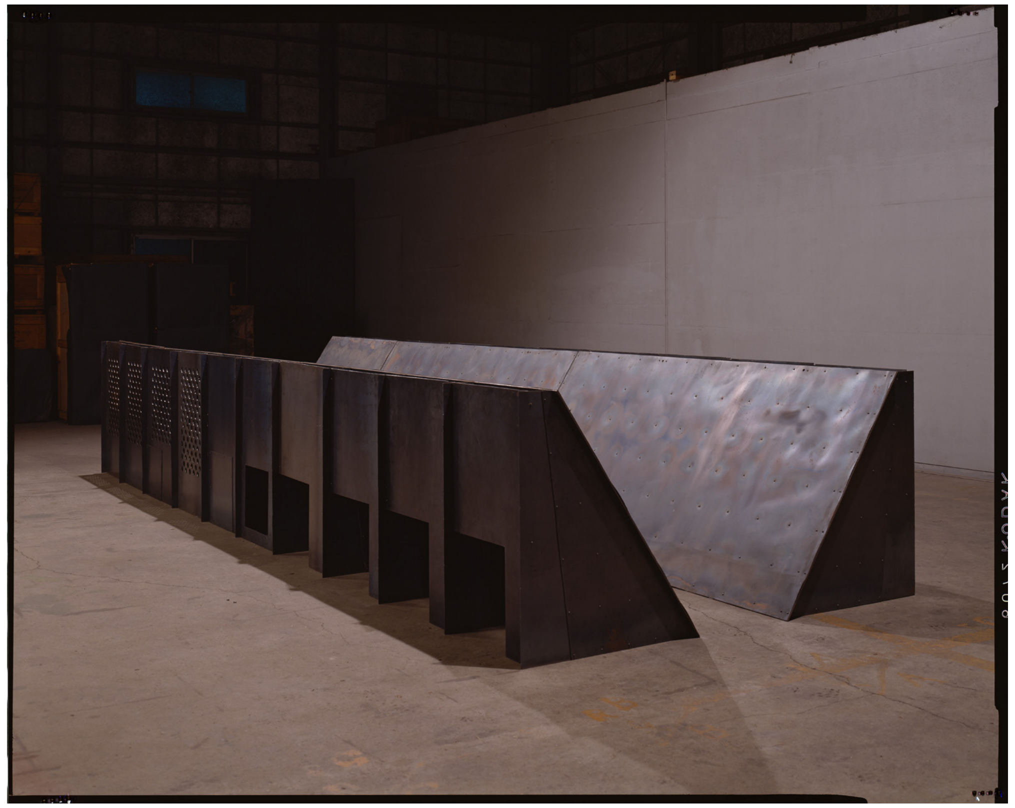
1987
「今日の作家 若林奮展」
（東京国立近代美術館・京都国立近代美術館）

1996
第27回中原悌二郎賞、受賞。

1997
「ISAMU WAKABAYASHI」展
マンハイム市立美術館ドイツ、
ルートヴッヒ・フォーラム、
アーヘンへ巡回。

1999
多摩美術大学教授に着任。

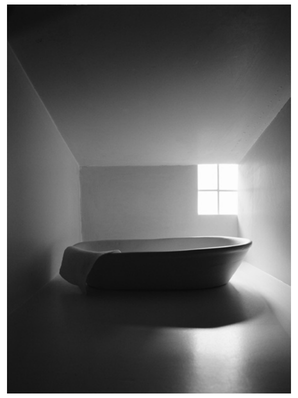
2003
芸術選奨文部科学大臣賞、受賞。
同年、逝去。
東京国立近代美術館、東京都現代美術館、神奈川県立近代美術館、横須賀美術館、世田谷美術館、豊田市美術館、名古屋市美術館、府中市美術館、武蔵野美術大学図書館・美術館、多摩美術大学美術館、他にて個展多数開催、各美術館に作品収蔵。


5

1

不在の存在

また、あわせてニューヨーク在住で、練馬区出身のアーティスト、寺田真由美（1958生）の個展を開催します。これまで35点にも及ぶ代表作をご寄贈いただきました。寺田は、室内模型を作成し、まるで本物の一室のように見立てて撮影した内省的な雰囲気の写真作品を制作しています。そのほとんどが白を基調としたモノクロでしたが、近年の作品には淡い色が表れています。また、最近では石彫に挑戦し、創作の領域を広げています。初期の立体から、代表的な写真作品とその模型、そして彫刻と幅広く、寺田の制作活動を振り返ります。当館では、2010年に「PLATFORM2010 寺田真由美—不在の部屋」展を開催しており、本展は16年ぶりの個展「不在の存在」となります。


2

3

4

1《skylight and spiralstaircase 060101》ゼラチン・シルバー・プリント、57.0×43.0cm、2006年
2《bathtub 010801》ゼラチン・シルバー・プリント、57.0×43.0cm、2001年
3《bucket 151301p》ピグメント・プリント、56.0×41.0cm、2015年
4《exam table with hibiscus 140401》ゼラチン・シルバー・プリント、50.8×61.0cm、2014年

寺田真由美
TERADA MAYUMI

東京都出身。
アメリカ、ニューヨーク在住。
筑波大学大学院修士課程芸術研究科、修了。

1985
「第17回現代日本美術展」
（東京都美術館・京都市美術館）、
東京都美術館賞、受賞。

1986
第67回草月展にて（日本橋高島屋、東京）
新人賞、受賞。

2001
「かたちをもとめて—— 11人の日本人作家展」
（釜山市立美術館、韓国）

2003
文化庁新進芸術家海外研修により
ニューヨーク派遣（04年まで）。
ウッドストック写真センターにて
アーティスト・イン・レジデンス

2006
ニューヨーク芸術財団（NYFA）より奨学金。

2010
「インビジブル バウンダリー」
（Robert Miller Gallery、
ニューヨーク・アメリカ）
「PLATFORM2010 寺田真由美
——不在の部屋」（練馬区立美術館、東京）

2011–12
「Living Absence」（森鴎外記念館、ベルリン・ドイツ、ソウル写真美術館、ソウル・韓国）

2018
ポーラ美術振興財団より助成。
“Photography as Art-Seeking Living Absence”（在シンガポール日本大使館分館、ジャパンクリエイティブセンター）

2024
見ることの重奏展—— TOPコレクション
（東京都写真美術館）
東京都現代美術館、東京都写真美術館、練馬区立美術館、バレンシア現代美術館、ミュージアム・ハンミ（韓国）などに作品収蔵。

関連イベント

講演会
「Run and Rest 若林奮の時空」
講師＝ 水沢勉 氏（美術史家・美術評論家）

1952年横浜生まれ、1976年慶應義塾大学美学美術史学科卒業、1978年同大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務。2008年横浜トリエンナーレ、「タイムクレヴァス」総合ディレクター。2011年より2024年まで神奈川県立近代美術館長。
単著に『この終わりのときにも 世紀末美術と現代』（思潮社、1989年）、『エゴン・シーレまなざしの痛み』（東京美術、2023年）など。編著に『樹の瞳 宮崎郁子作品集』（2013年）エゴン・シーレ没後100年宮崎郁子展 in krumauプロジェクト、など。共編著に矢萩喜從郎との『点在する中心』（春秋社、1995年）、五十殿利治との『モダニズム／ナショナリズム』（せりか書房、2003年）など。監修に『柚木沙弥郎 永遠のいま』（平凡社、2024年）など。

講師のことば＝「若林奮（1936–2003）は、アジア太平洋戦争後の日本での彫刻表現の可能性を大胆かつ緻密に探求しつづけた大切な彫刻家。国際的な評価も高いものの彫刻が生まれる場の特性にとりわけ敏感な感受性と精神性の持ち主であり、「振動尺」と呼ばれるシリーズ以後、はっきりと自作を包む時空の広がりにより一層敏感になっていく。場を安易に離れたりしない。「庭」が最晩年の最重要モチーフとなった。大に仮託した空間表現である《Run and Rest》（1996年、練馬区立美術館蔵）もまた環境との対話性を宿している。そのような若林奮独自の世界を少しでも浮きあがらせられたらと思う。」

日時＝ 8月8日（土）14：00–15：30
会場＝ サンライフ練馬 3階研修室
定員＝ 中学生以上70名（要事前申込・抽選）
申込締切＝ 7月24日（金）必着
＊参加には観覧券（当日以外の半券でも可）が必要です。
申込み方法＝ ①イベント名 ②住所 ③氏名（ふりがな）④年齢（学年）⑤電話番号を記入の上、往復ハガキまたは練馬区立美術館ホームページの各イベント情報ページより申込フォームにてお申込みください。
＊1通のハガキ・申込フォームで2名まで応募可（連名で記入）

アーティストトーク
寺田真由美氏に、実際の作品を見ながらお話し頂きます。
聞き手＝ 担当学芸員
日時＝ 9月5日（土）14：00–（40分程度）
会場＝ 当館企画展示室1・2
＊事前申込不要。当日の観覧券が必要です。